

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
専修学校インターナショナルデザインアカデミー	平成4年3月25日	前新 健	〒901-2131 沖縄県浦添市牧港1丁目60番地の14 (電話) 098-942-6780																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人KBC学園	平成6年3月14日	大城 圭永	〒900-0025 沖縄県那覇市壺川3-5-3 (電話) 098-835-4240																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
文化・教養	文化教養専門課程	ファッション科	平成28年文部科学省 告示第19号	—																											
学科の目的	ファッション業界に関わる職業人として服飾制作実技(パターンメイキング・モデリズム)や、服飾販売実技(スタイリング・販売実務)にて実務的な知識・能力を身につけ、その知識に基づきリアルショップ(実店舗運営)を通して実務に関する実践的な技術・技能を身につけることを目的とする。																														
認定年月日	平成 29年 2月 28日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	2064	428	1111	957	0	0																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
30人	28人	0人	2人	8人	10人																										
学期制度	■前期:4月1日~9月30日 ■後期:10月1日~3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準はA、B、C、Dの4種 方法は作品評価、書類試験結果																											
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月21日~8月31日 ■冬季:12月24日~1月10日 ■春季:3月1日~4月10日 ■学年末:翌年3月31日		卒業・進級条件	1)出席率90%以上 2)授業課題の提出 3)卒業制作、修了制作の提出 4)学費完納																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者へのメンタル面、生活面等の相談対応 個別面談、個別作品指導		課外活動	■課外活動の種類 展示会、各イベント参加  ■サークル活動: 有																											
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) アパレル販売業界 有限会社 フレンドシップパートナーズ 株式会社ゲオホールディングス  ■就職指導内容 適性審査、自己発見検査、就職個別指導、面接指導 合同企業説明会、企業個別説明会  ■卒業生数 3 人 ■就職希望者数 2 人 ■就職者数 2 人 ■就職率 : 67 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 67 %  ■その他 卒業後進学  (令和 31年度卒業者に関する 令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成31年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パターンメイキング技術検定</td> <td>③</td> <td>15名</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>ファッション販売能力検定3級</td> <td>③</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td>3名</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>色彩検定</td> <td>③</td> <td>15名</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>ファッション販売能力検定2級</td> <td>②</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	パターンメイキング技術検定	③	15名	12名	ファッション販売能力検定3級	③	0名	0名	ファッションビジネス能力検定	③	3名	2名	色彩検定	③	15名	14名	ファッション販売能力検定2級	②	0名	0名
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
パターンメイキング技術検定	③	15名	12名																												
ファッション販売能力検定3級	③	0名	0名																												
ファッションビジネス能力検定	③	3名	2名																												
色彩検定	③	15名	14名																												
ファッション販売能力検定2級	②	0名	0名																												
中途退学の現状	■中途退学者 3名 ■中退率 19 % 令和3年3月31日時点において、在学者19名(令和3年3月31日卒業者を含む)  ■中途退学の主な理由 進路変更  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による細やかなガイダンスとともに、臨床心理士によるメンタルケアを行う。 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の3者で情報共有し立ち直りを促す。																														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入  ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.ida.ac.jp/">http://www.ida.ac.jp/</a>																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①教育課程編成委員は、ファッション業界などの専門的知見を有する業界団体等の役職員から選任する
- ②卒業生の主な就業先である服飾販売、企画(服飾縫製・企画・販売)の企業様と連携して教育課程の編成を行う事により、専門かつ実践的な知識・技術を習得した即戦力となる人材を育成する。
- ③専門分野における履修の中心となる服飾パターンメイキングから、縫製、販売実技の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新情報を反映させる。
- ④上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうかを、教育課程編成委員会による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で教育の質の確保、更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ①学校管理運営規程の(委員会等の設置)第3条に教育課程編成委員会の設置が位置付けられており、教育課程は、教育課程編成委員会に諮り、学科の目標に照らして校長が編成する。
- ②教育課程編成委員は、委員長(教務責任者)・学科責任者が参加することにより、企業等から提示された意見や提言を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、授業方法・内容等)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
嘉数 久代	アパレル沖縄生産協同組合 アトリEkokua	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	①
棚原 竜也	LIFEDESIGN&COMMUNICATIONS(合)	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
前川 潤平	インターナショナルデザインアカデミー 教務主任	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	
福地 あゆみ	インターナショナルデザインアカデミー 教務	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間開催数 2回(5月・10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年6月26日 14:30～17:30

第2回 令和2年10月23日 14:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ・ 多様性、順応性を受け入れ、個別の対応ができるよう、個人ガイダンスを実施する
  - ・ 他学科の学生、職員と交流(関わる機会)を設け、自分の領域だけではないデザインを知る
  - ・ アウトプットする場面を意図的にカリキュラムに仕込む
- (同じ志を持った同士は今までのクラスメイトではなく将来的に同じ方向へ向かう仲間と言う意識は自己開示しやすいかもしれない)
- ・ 「学ぶ姿勢は将来も一緒だよ」：学生という意識から社会人予備軍として、練習する場

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ファッション業界における職業人(服飾造形、ファッションビジネス、販売実務に精通する人材)として必要な知識・技能を習得するために、実習・演習の授業内容、手法に関して業界の専門的知見を有する企業等と連携し、実践的なカリキュラムや教材の作成および指導力の向上につなげる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

上記方針を実現するために、株式会社ヴィーナスより、2日間の集中講座を設けていただき、ヴィジュアルマーチャンダイジングの基礎、売り場での心得など、幅広く学ぶ。講話を通し、知識をに身につけ、演習を通して技法、テクニックを学ぶ。最終日には実際の百貨店の売り場を、業者の方、ヴィーナスのスタッフとチームを組み、作り上げる

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
VMD	ビジュアルマーチャンダイジング(VMD)の趣旨、基本、構成を学ぶ。色つき紙コップを用いて疑似的に商品の色彩構成を単純化し、学生の理解度を向上させる演習を行う。最終日には企業での売り場作りをチームで実践的に行う。	有限会社ヴィーナス
素材知識	教科書からでは分かりにくい素材の趣旨、基本、構成を学ぶ。アパレル業界の現場で使われていた実際の素材、市場に出回る商品を用いて、質感や、生地の見え方の違いなどを実践的に触れながら学ぶ。	神山デザイン事務所
服飾造形応用	・一年次の基礎から・応用を得て、リアルショップで販売する商品の企画を行う。 ・卒業制作としてオリジナルブランド作品を制作する。 ・作品発表とレポートを作成。リサーチ力、プレゼンテーション能力を身に付ける。	Quiet Design Studio
グラフィックデザイン I・II	・イラストレーターやフォトショップで作り出せるものを知る。 ・アプリケーションの基礎操作を身につける。 ・テキスタイルデザインやショップ経営でのグラフィックの可能性を認識する	Big River Field

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教職員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識をもち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記の通り教員研修環境を整える。

①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を招いた実践的な知識・指導スキル研修。

②県などの公共事業によるセミナーなどの参加。(自己啓発)

③学内に設置される附帯教育講座を利用しての自己啓発。

④学校法人KBC学園教職員研修規程 第4条、第5条に基づき必要な知識技術の研修を実施する

上記研修を開催期間など考慮して、4月の年度初めまでに年間受講スケジュールを計画的に組み立て、受講している。

## (2) 研修等の実績

### ①専攻分野における実務に関する研修等

□研修名:「織専～SEN-I EXPO～」倉敷ファッションフロンティア2020

□期間:令和2年10月26日(月)～ 11月6日(金)

□対象:一般

□内容:通常では見られない岡山県内の繊維企業のものづくりの現場をオンラインでバーチャル訪問。

企業担当者やものづくりの匠たちが気になる質問にも回答。

学生服、ユニフォーム、デニム、ジーンズ、テキスタイル、染色加工など、岡山の繊維業界を担う多彩な企業へのバーチャル訪問した。

①10月26日(月)13:00～丸進工業(株) ②10月30日(金)10:20～ セロリー(株) ③10月30日(金)11:20～ (株)タケヤリ

④11月4日(水)

9:30～ 豊和(株) ⑤11月4日(水)10:20～山陽染工児島ファクトリー(株) ⑥11月4日(水)11:20～(有)ニイオンイチ ⑦11

月6日(金)

10:20～(株)明石スクールユニフォームカンパニー ⑧11月6日(金)11:20～(株)ジョンブル

### ②指導力の修得・向上のための研修等

□研修名:「Koyart」Virtual Event オンラインプレゼンテーション: DAIFUJIWARA DESIGN INC.

□期間:令和2年11月2日(日) 13:00-

□対象:一般

□内容:DAIFUJIWARA DESIGN INC.では、主に三浦半島や房総半島、そしてその先端の街で生活や創作活動を営まれる農家の方々、地域に住う学生、参加する各専門領域を持つ団体の皆様と共に、野菜の販売小屋をテーマにして社会課題に実践的に取り組むプロジェクト、koyart(コヤート)に参加し、本プロジェクト活動をスタートすることになりました。

□koyartの活動を紹介するVirtual Event(オンラインプレゼンテーション)を開催致します。koyartの概要や各団体の取り組み事例などをご紹介いたします。社会人対象に開催されたオンラインプレゼンテーションへ参加することで、産学協同で開催するイベントのあり方、オンラインプレゼンテーションの信仰などデザインコンプの参考材料になった。今後IDAファッション科が主体的にイベントを開催することができる参考材料になった。

## (3) 研修等の計画

### ①専攻分野における実務に関する研修等

□研修名「パターンマジックIIの基本的な操作を開設します(製図編)」

□連携企業等:主催:東レ

□期間:令和3年5月11日

□対象:ファッション科職員

□企業との連携内容:画面構成や基本的な操作の解説」と「囲み製図から簡単な身頃を作成」の2講座を受講することで、技術の向上はもちろん、オンラインでの操作方法、伝え方なども今後のリモート授業に活かせるかも検証したい。

### ②指導力の修得・向上のための研修等

□研修名「非認知能力パートナー養成 STEP1」

□連携企業等:一般社団法人教育ソリューション研究協議会

□期間:令和3年7月15日開催

□対象:教務部職員

□内容:忍耐力や自制心、意欲や向上心、コミュニケーション力など、学力テストでは測れない力。それらは“非認知能力”と言われ、近年、未来を生き抜く力として重要視されています。その非認知能力を、子育てや教育・保育、人材育成など、さまざまな場でどのように育み、伸ばしていくか。未来や社会の変化から非認知能力の必要性を理解し、非認知能力の獲得・向上に必要な方法を実践できるパートナー・トレーナーを育成し、子どもたちや大人の「未来を生き抜く力」をここから育みます。 <https://ncs-esc202107.peatix.com/>

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

### (1) 学校関係者評価の基本方針

当校の教育理念は、高度な技能技術を身に付け、人間性豊かな永久戦力となる人財を育成する事である。この教育理念に基づき実践的な教育が実現できているか、また、その教育を実現する為に必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①教育理念・育成する人財像が、「学生の手引き」に記載されているか ②教育理念・育成する人財像が、教職員手帳等に記載されているか ③教育理念・育成する人財像が、HP、パンフレット・募集要項等に記載されているか ④各学科の修業期間における教育事業計画が文書化され、提示されているか
(2)学校運営	①年度予算、中期計画が策定されているか ②予算は計画に従って妥当に執行されているか、定期的に確認しているか ③理事会・評議委員会が定期的に開催されているか ④運営会議が定期的に開催されているか ⑤人事考課制度は文書化されているか ⑥賃金制度は文書化されているか ⑦採用制度は文書化されているか ⑧勤務管理が適正にされているか
(3)教育活動	①教育理念の達成に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか ②カリキュラム作成の為のカリキュラム作成委員会があるか ③カリキュラムを作成するに当たり、業界関係者等の外部関係者の意見を取り入れているか ④シラバス或いは講義要項等が作成されているか ⑤学生によるアンケート等による授業評価が定期的に行われているか ⑥授業改善のための組織的取組が行われているか ⑦企業・施設等での職場実習があるか ⑧キャリア教育等を行っているか ⑨ビジネス教育を行っているか ⑩コミュニケーション能力の向上に向けた取組を行っているか ⑪専門性や指導力等の向上のための外部研修・研究へ派遣しているか ⑫教員の資質の向上の為の、自己啓発への支援をしているか ⑬非常勤講師との定期的な情報共有の為のミーティング等を開催しているか。および非常勤講師からの報告書等が提出されているか
(4)学修成果	①就職に関する目標を設定したか ②就職に関する目標は教職員に共有されているか ③就職活動に関する記録がなされているか ④学生の就職結果に関して検証・報告がされたか ⑤資格・検定・コンペに関する目標を設定したか ⑥資格・検定・コンペに関する目標・計画が教職員に共有されているか ⑦資格・検定・コンペ結果に関して検証・報告がされたか ⑧進級率の目標を設定しているか ⑨進級率に関する目標・計画が教職員に共有されているか ⑩退学結果に関して検証・報告がされたか
(5)学生支援	①担任による面談が定期的に行われているか ②担任は、適切に配置されているか ③学生のメンタルヘルスについて相談できる窓口が整備されているか ④学生指導に関する教職員の相談に応じる体制があり、周知されているか ⑤学生の面談・相談記録があるか ⑥定期的に健康診断を行っているか ⑦奨学金制度等の経済的支援があるか ⑧保護者との計画的な相談会・面談を行っているか ⑨卒業生の会(同窓会等)はあるか ⑩卒業生への職業紹介をしているか ⑪卒業生の就業状況把握の為の定期的な取り組みを行っているか

(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>①組織図はあるか</li> <li>②学校の年間スケジュールはあるか</li> <li>③図書室・図書コーナー等があるか</li> <li>④キャリアサポートを行う就職支援室・支援コーナー等があるか</li> <li>⑤喫煙に関する規定が文書化・提示されているか</li> <li>⑥環境エコ活動に関する規定が文書化・掲示されているか</li> <li>⑦学内の整理・整頓・清掃に関する規定が文書化されているかまた定期的に管理、チェックがされているか</li> <li>⑧学内外実習時の安全対策に関して文書化されているか</li> <li>⑨学校生活において保険に加入しているか</li> <li>⑩防災対策に対して文書化・組織化されているか</li> <li>⑪防災訓練・研修が定期的実施されているか</li> <li>⑫教育設備・備品等が定期的に管理・点検されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校案内等に目指す資格・検定・コンペが明示されているか</li> <li>②資格・検定・コンペの結果(合格者数・合格率)を公表しているか</li> <li>③学校案内等に学費・教材費・選抜方法等が明示されているか</li> <li>④パンフレット、HP等において就職実績を公表しているか</li> <li>⑤入学に関する問い合わせ等に適切に対応できる体制が出来ているか</li> <li>⑥学校説明会等による情報提供を行っているか</li> <li>⑦入学者に対し学習、学生生活の為のオリエンテーションは行われているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>①会計監査の結果報告が文書等にて明確化されているか</li> <li>②私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか</li> <li>③備品及び車両に関する管理規定が文書化・管理されているか</li> <li>④物品購入等における複数業者からの確認がされているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>①個人情報保護規定が文書化されているか</li> <li>②セクシャルハラスメントに関する規定が文書化されているか</li> <li>③施設設備の保守・管理が定期的に行われているか</li> <li>④防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)が整備・点検されているか</li> <li>⑤教職員の健康診断がされているか</li> <li>⑥自己点検・評価の為の運用ルールが文書化されているか</li> <li>⑦自己点検・評価の組織があるか</li> <li>⑧自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか</li> <li>⑨自己点検・評価の結果を全教職員で共有する機会を設けたか。結果に基づき計画的に改善を実施しているか</li> <li>⑩自己点検・評価報告書があるか。公表されているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会的活動(地域活動・地域貢献・ボランティア活動等)を実施しているか</li> <li>②教育資源を地域社会に提供しているか</li> <li>③社会的活動(地域活動・地域貢献・ボランティア活動等)を奨励・支援しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

令和2年度「自己点検・評価」に基づき、学校関係者評価委員会、委員のそれぞれの立場から項目ごとにご指摘をいただいた。教育理念の達成度と教育効果に関する点でデザインと就職に関する問題点を指摘していただいた。特に本人のなりたいたい職種と本人の適性に関するギャップに関しては就職指導において2名体制にすることにより適正とメンタル面の両方からアドバイスできるような組織運営にした。また各科の資格や検定に関する取り組みと時代のニーズに関する指摘があり、各科の取り組み検定に関して精査を行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
平井 里美	株式会社 永昌堂印刷	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業委員グラフィックデザイン分野
根路銘まりえ	沖縄県立真和志高校 教諭	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	高校教員
宮里 則徹	在校生保護者	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	保護者
銘苅 省吾	株式会社 沖縄ハートス	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業委員デジタルデザイン分野
大湾 美佳	COCON	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業委員インテリア建築分野
仲吉あゆみ	にじのいえ	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業委員ファッション分野
比嘉 みずき	株式会社monoii	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業委員マンガ分野

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<https://www.ida.ac.jp/information/public/>

公開時期 令和2年5月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ①実践的な学習における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会の選択に資する事
- ②学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題等学校全体に関する情報を分かり易く示す事。
- ③上記①・②により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼につなげていく事。
- ④情報の公開を通じて学校の教育の質の確保と向上を図る事を目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①学校の沿革 ②特色 ③所在地、連絡先
(2) 各学科等の教育	①収容定員 ②カリキュラム、③目指す検定・公募・コンテスト ④検定・公募・コンテスト実績 ⑤就職状況
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6) 学生の生活支援	①学生寮 ②在校生の声 ③スクールカウンセラー
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費免除等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	自己点検・学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(~~ホームページ~~・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<https://www.ida.ac.jp/information/public/>

## 授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッション科)令和2年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			素材知識	できるだけ多くの素材に触れる 実験や実習を取り入れ用語などを覚えやすくする 検定を視野に入れ、基礎知識を繰り返す	1・前	18		○			○			○	○	
○			モード史	プリントワーク学習 過去の資料から、レポートをまとめ発表を行う。	1・前	27		○			○				○	
○			色彩学 I	講義では、プロジェクター・スクリーン、黒板での板書が主。配色カードをメインとした実習を展開、その他配色演習としてコピックマーカーを利用したアナログ演習と実際の配色例を参考に配色効果を理解する。	1・前	45		○			○				○	
○			ファッション販売論	ファッション販売能力検定3級 取得 座学的知識では止まらず、日常から専門用語を意識し、使用する。 学ぶ知識を他の授業でも応用する。	1・前	36		○			○				○	
○			スタイリング	スタイリングの基礎知識やポイントを学び、実践的に診断や提案を行う。自ら調べる力・伝える技術を身に付け、その得た情報をプレゼンテーションする。自分の言葉で伝えることで情報を再確認し、得た情報を自分の知識として蓄積させる。	1・前	21		○	△		○	○	○			
○			志学 I	KBC学園の教育理念に掲げられた「人財」を目指し、人間性を磨き各自の「志」をたてるために「学生クレド」について理解を深め、望ましい価値観や考え方を身に付ける KBC学園の教育理念に掲げられた「人財」を目指し、人間性を磨き各自の「志」をたてるために「学生クレド」について理解を深め、望ましい価値観や考え方を身に付ける	1・前	39		○			○				○	
○			インターンシップ1	インターンを希望する職種企業を自らリサーチする。 企業への電話かけ・スケジュール調整を行う。 企業にてインターンを行い、現場の動きを知る。	1・通	133		△	○	△	○	○	○			
○			グラフィックデザイン	イラストレーターやフォトショップで作れ出せるものを知る。 アプリケーションの基本操作を身につける。 テキスタイルデザインやショップ経営でのグラフィックの可能性を認識する。	1・前	30					○	○			○	
○			モデリズム(服飾造形実技)	スカート、パンツ、ブラウス制作を通して、パターンメイキング・縫製の基礎を習得する。ミシンなどの洋裁道具、パターン用具の扱いを身に付ける。デザイン発想を具現化する楽しさ・難しさを考察する。アイテム毎に、作品発表とレポートを作成。リサーチ力、プレゼンテーション能力を身に付ける。	1・通	348			△	○	○			○	○	
○			パターンメイキング・CAD	洋服の作りを、理論・実技両方の面で学ぶ。・過去問を課題に、授業で回答・解説を中心に行う。 パターンメイキング技術検定3級受験。 アパレルCADソフトを使用。課題内容に合わせた、ソフト上でのパターン制作、またはスキャニングでのパターン制作を行う。出力したパターンを使用した、トワール作成を行う。 上記内容をまとめた、レポート・データの提出。	1・後	102		△			○	○		○		
○			販売実務	主にグループワークを行う。相手の考えを知る事の大切さを知り、各々のプレゼン力を高める。 現場の流れを実践的に授業で取り組み、実際に感じたことから問題解決能力を養う。	1・前	18		△	○	△	○	○			○	
○			VMD	企業研修資料を配布して授業を行う。 売り場を想定した演習を、課題をもとに行う。 最終日に県内商業施設にて、現場実技研修を実施。現地スタッフとチームを組み、売り場を構築する。	1・前	36		△	○	△	○	○			○	○
○			ファッションショー企画・イベント	様々なデザイナーのコレクションやVTRや展示会を見て、新しいショーのあり方を考える。 役割分担を行い、自分の立場に使命感と責任をもって遂行する。	1・通	117			○	△	○	○	○			
○			ファッションビジネス	これまで学んだファッションの知識を活用し、アパレル業界の成り立ちを知る。実際の店舗へ行き、リサーチ内容を確認しながら分析を行う。トレンドを意識したショップの企画を行い、内容に沿った資料の作成。伝える事を意識した、プレゼンを行う。	1・後	126		△	○	△	○				○	



分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			志学Ⅱ/ 就職実務	KBC学園の教育理念に掲げられた「人財」を目指し、人間性を磨き各自の「志」をたてるために「学生クレド」について理解を深め、望ましい価値観や考え方を身に付ける ・企業説明や卒業生・ゲストの講話を通して、働くことへの行動と意識に繋げる。	2・通	81		○			○		○			
	○		ファッションビジネス論	ファッションビジネス検定3級取得を目指し、座学的講義を中心に行う。知識では止まらず、日常から専門用語を意識し、使用し、他の授業、生活でも応用する。	2・前	84		○			○		○			
○			ファッションショー企画・イベント	2年間の集大成である作品発表として、学生主体で企画・運営する。社会人として必要なコミュニケーション能力及び自主性を身につけ、共通目標の報告・連絡・相談を徹底する。 役割分担を意識し、自分の立場に使命感と責任をもって遂行する。	2・後	297			○	△	○	○	○			
	○		パターン検定	洋服の作りを、理論・実技両方の面で学ぶ。 過去問を課題に、授業で回答・解説を中心に行う。	2・通	84		△	△	○	○	○	○			
	○		リアルショップ	コース授業と関連して、よりファッションビジネスの内容をマーケティングする。デザインコンプに向けた段階的な企画・運営を行う。段階的な課題取り組みから、分析・検証し(PDCA)、配慮する 2月のデザインコンプでお店を立ち上げ販売し、全ての行程をまとめ、ファイルを作成する	2・通	348			○	△	○	○	○			
○			グラフィックデザイン	アプリケーションの基本操作を復習し身につける。 レイアウトや画像編集の際に適切にアプリケーションを使用する。	2・前	45				○	○		○			
	○		服飾造型応用	一年次の基礎から応用を学び、ジャケット制作を通して、パターンメイキング2級の取得を目指す。 また、リアルショップでの商品企画・卒業制作ではオリジナルブランド制作を行う。 作品発表とレポートを作成。リサーチ力、プレゼンテーション能力を身に付ける。	2・通	348			△	○	○	△	○	○		
○			素材Ⅱ	一年次の基礎から、より多くの素材に触れる。 実験や実習を取り入れ、素材の仕組みや作りを理解し、制作へと反映させる。	2・前	14		○			○			○	○	
○			色彩学Ⅱ	講義では、プロジェクター・スクリーン、黒板での板書が主。 配色カードをメインとした実習を展開、その他配色演習としてコピックマーカーを利用したアナログ演習と実際の配色例を参考に配色効果を理解する。 1年次の基礎から、応用を学び2級取得を目指す。	2・後	33		○			○			○		
○			ファッション販売検定対策	ファッション販売能力検定3級 取得 1年次の復習を中心に検定取得に向けて、講義・対策授業を行う。 座学的知識では止まらず、日常から専門用語を意識し、使用する。 学ぶ知識を他の授業でも応用する。	2・前	30		○			○			○		
○			VMD	1年次学習内容を復習し、より意識的に行動できるよう授業を展開。 企業研修資料を配布して授業を行う。 売り場を想定した演習を、課題をもとに行う。 最終日に県内商業施設にて、現場実技研修を実施。現地スタッフとチームを組み、売り場を構築する。	3・前	36		△	○	△	○	○		○	○	
合計						25	科目									2064単位時間

卒業要件及び履修方法	授業期間等
(試験) 1.学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって、これを定める。ただし、授業科目によってはその他の方法で査定することができる。 2.試験には定期試験、再試験および追試験等がある。再試験はやむを得ない事故等により定期試験を受けなかった者に対して行い、追試験は受験の結果、不合格となった者のためにこれを行う。 3.再試験および追試験は本校において必要と認めたとときに限り、これを行う。 (学業成績) 学業成績の判定はA、B、C、Dの4種をもってこれを表し、Aは80点以上、Bは60点以上、C	1学年の学期区分 2期

は50点以上、Dは49点以下とし、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。

(卒業)

本校に在学し、下記に定める授業出席率以上履修し、かつ、その該当する所定の授業科目について各学年末における試験ならびに課題を提出後に合格し、卒業資格を得た者は、卒業証書を授与する。

(1)授業課題提出率100%かつ修了制作、卒業制作を提出し、各科目の90%以上の出席をもって卒業とする

1学期の授業期間

20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。